新年のご挨拶

　　　　　　　　　　　　　　　　木古内町病院事業管理者兼

　　　　　　　　　　　　　　　　木古内町特別養護老人ホーム「いさりび」

施設長　小　澤　正　則

　新年、明けましておめでとうございます。

皆様方には新年をいかがお迎えだったでしょうか。新型コロナ蔓延の中で、ご家族が集まれず、既知の方々も個々に分散しての静かな正月の方が多かったと存じます。

　昨年は、施設利用に際して規制のかかった不自由な状態でご利用いただきました。これも安全を確保する最善の策との判断によるものでございます。

一般に介護施設は、認知症をはじめ種々の合併症を持つご高齢な方々がたくさんいらっしゃいます。「いさりび」も例外ではなく、一旦感染が発生した場合の事態は計り知れないほど過酷なものとなることは想像に難くありません。

感染は水際で何としても防がなければなりませんが、その発生源は外部からの持ち込みでしかありません。

職員には日常の体調管理はもとより、外出に際し地域や目的に行動制限を課しました。また、ご利用の皆様には、ご家族を含めた体調チェックや地域外から来訪者のおられるご家庭に一定期間の通所自粛をいただくなど多大なご負担をお掛けしました。

感染症というのは、少しの油断で他人から、また他人へと伝播するものですので、これからも片時も注意をゆるがせにできません。

しかし、止まない雨はないように、収束しない災害はありません。春にはワクチン接種予定との朗報もありますので、暗いトンネルにもようやく出口の灯りが見え始めています。

どうか、この状態ができるだけ早く収束して、皆様方にとりまして実り多い年となりますよう、職員一同全力をあげて支援・介護に当たらせていただきますのでよろしくお願い申し上げます。